

施 策 名 (小項目)	公民館・図書館機能の充実	コード	作成者	役職	備前市立図書館長
		02-02-07	横山 裕昭	氏名	横山 裕昭
			電話	64-1134	
		このシート作成に要した時間 1.5 時間			

この施策のアピールポイント
 公民館、図書館では、生涯学習の拠点として、気軽に来館いただける環境づくりを行ってまいります。公民館では、市民の生きがいや自己実現を促進するための事業を展開するとともに、図書館では生涯を通じて読書に親しむことのできる環境の整備を行ってまいります。

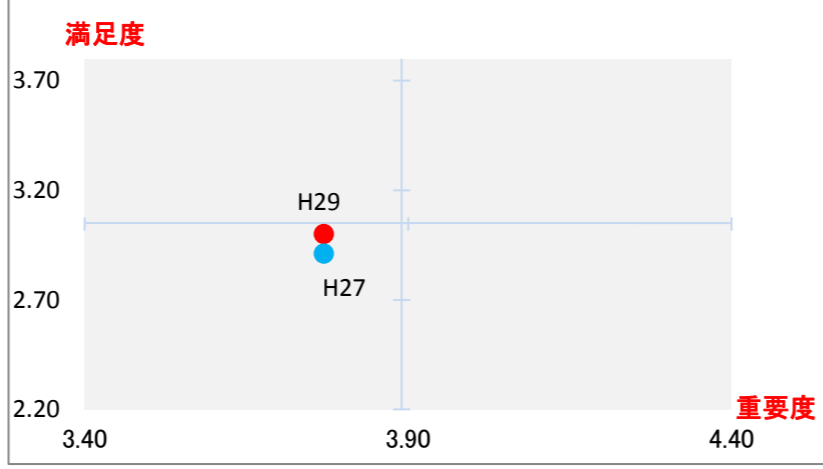
この施策の平成29年度の施政方針
 新図書館建設に向け準備室を設置する。また、利用者ニーズに応じた図書館サービスの充実を図ると共に第2次備前市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもと本との出会いを支援する。さらに、障がい者や高齢者向けの図書を充実する。

＜備前市総合計画の内容から記載する＞

① 政策の体系	基本構想（大項目）	自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」
	基本計画（中項目）	自分を磨ける・自分を変えられるまち
② 対象と目的 (誰のために、何のために)	公民館、図書館は、市民にとって最も身近な生涯学習の拠点です。公民館では市民に情報交換の場として気軽に利用していただき、図書館では豊富な知識や多様な情報を市民に提供する社会教育施設として、利用の場を提供します。	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	公民館・図書館は、地域活動・生涯学習の拠点です。最も身近な生涯学習施設である公民館では、文化イベントや各種講座の開催等さまざまな事業を行っていますが、趣味趣向の多様化による参加者の減少や固定化、事業のマンネリ化などの課題があります。地域の学習拠点として、すべての市民の生きがいや自己実現を促進する公民館事業を展開していくことが必要です。図書館は、知識の拠点施設として生涯を通じて読書に親しむことのできる環境の整備が必要です。また、多様化する市民のニーズに対応していけるよう、幅広い資料の収集とともに、新しい施設・設備の整備と充実が求められています。	
④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 公民館における学習機会の拡大・充実 公民館事業における若年層との交流促進 地区公民館への支援 図書館書籍の充実 本に親しむ活動の推進 図書館機能の整備・充実 	

⑤ 市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H27	H29
重要度 (%)	3.77	3.77
満足度 (%)	2.91	3.00



《グラフにおける領域の説明》

満足度

その施策や事業が必要か否かの検討が必要 → **見直し領域** ← 現状の方向性を継続

その施策や事業の存続の検討が必要 → **検討領域** ← 内容等見直し、市民満足度を高める事業を行う

重要度

調査結果に対するコメント、市民の反応等
 調査対象でない施策は、市民の反応等

重要度は横ばいで満足度は少し上昇しています。市民意識調査における生涯学習課への意見は、図書館の新設を望む声が非常に多い状況です。

⑥ 施策成果指標（基本目標・基本施策・施策意図から設定）

成果指標	施策に対する成果指標名	単位	過年度実績			評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
			H27	H28	H29			H32	H34
公民館の利用者数	目標	人	100,000	100,000	77,500	3館の利用者数の合計、備前市民センター、日生市民会館、吉永地域公民館の利用者含む。	H32	85,000	
	実績	人	78,662	75,889	80,651		H34	90,000	
	達成率	%	78.7	75.9	104.1				
	ベンチマーク								
図書館の利用者数	目標	人	28,000	30,000	23,000	3館（本館・分館）の利用者数の合計	H32	26,000	
	実績	人	19,834	20,475	20,163		H34	28,000	
	達成率	%	70.8	68.3	87.7				
	ベンチマーク								
1人当たりの貸出数	目標	冊	3.5	3.5	2.7	市民1人当たりの図書貸出冊数（貸出冊数/人口）	H32	3.0	
	実績	冊	2.4	2.5	2.3		H34	3.2	
	達成率	%	68.6	71.4	85.2				
	ベンチマーク								
公民館講座募集定員の充足率	目標	%	85.0	85.0	80.0	(応募者数/定員)	H32	80.0	
	実績	%	68.0	78.9	68.5		H34	90.0	
	達成率	%	80.0	92.8	85.6				
	ベンチマーク								

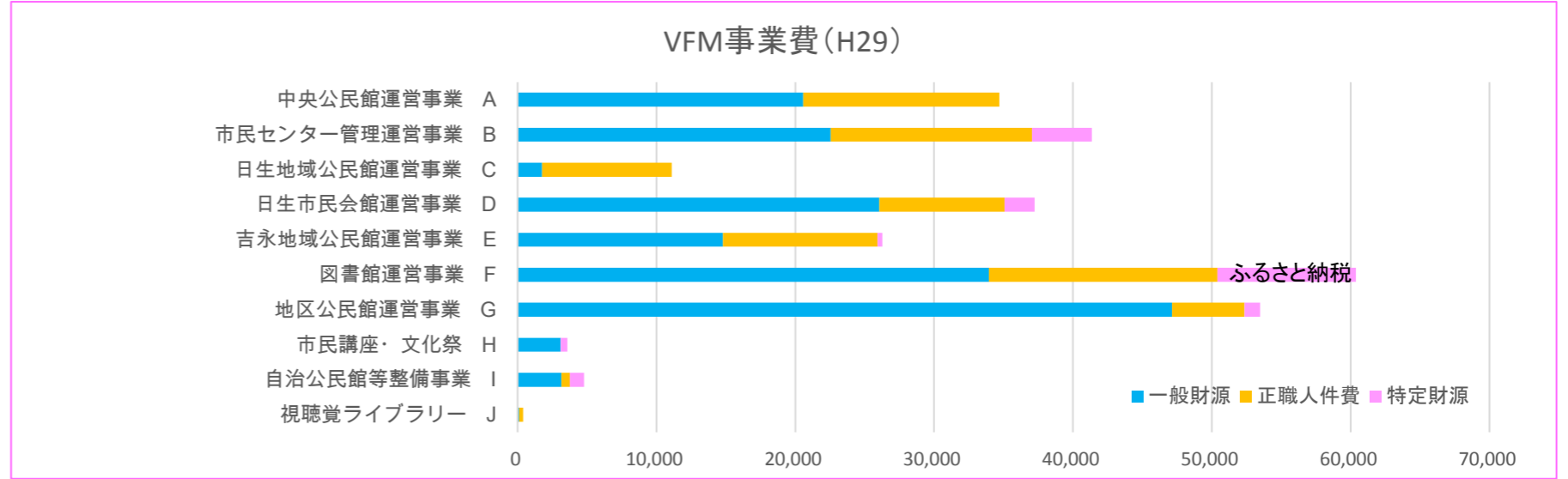
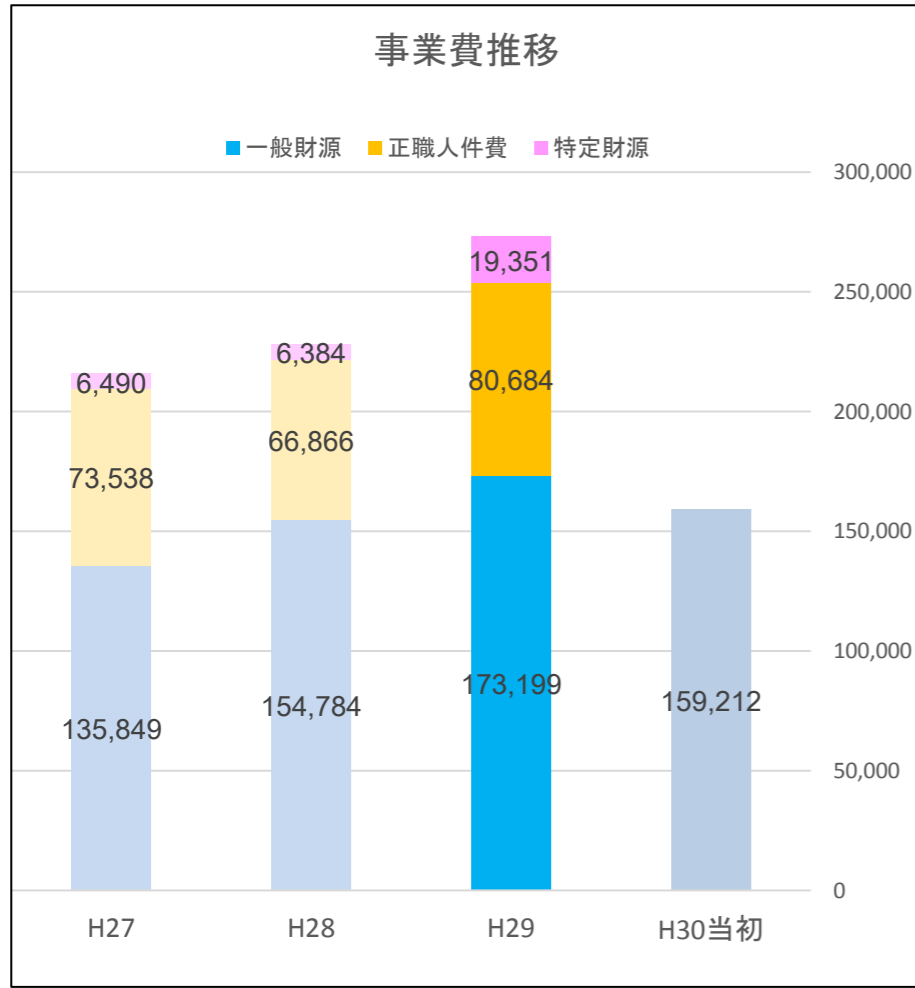
⑦ 目標達成に必要な新規事業（施策構成事務事業以外の事業）及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
学校教育課	学校図書館運営事業	児童期から本を選ぶ機会を作り、読書習慣を身に付けさせることができる。
子育て支援課	次世代育成支援対策事業	幼小期から本を選ぶ機会を作り、読書習慣を身に付けさせることができる。

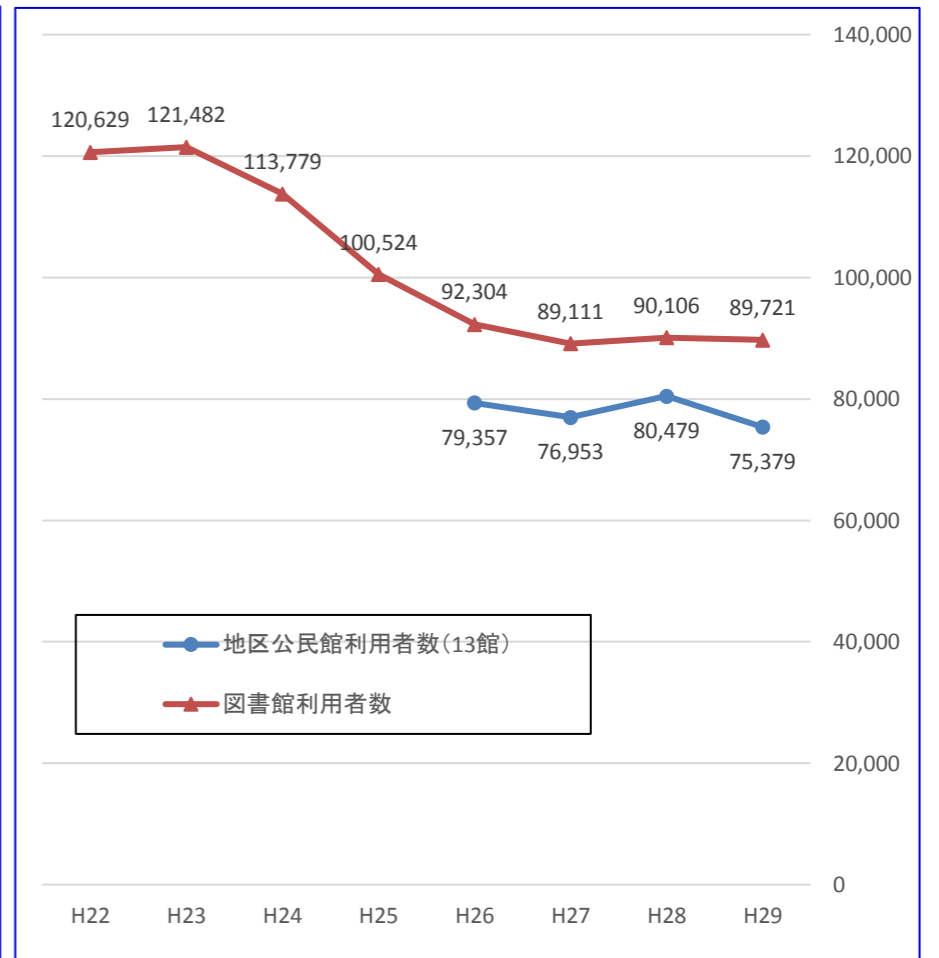
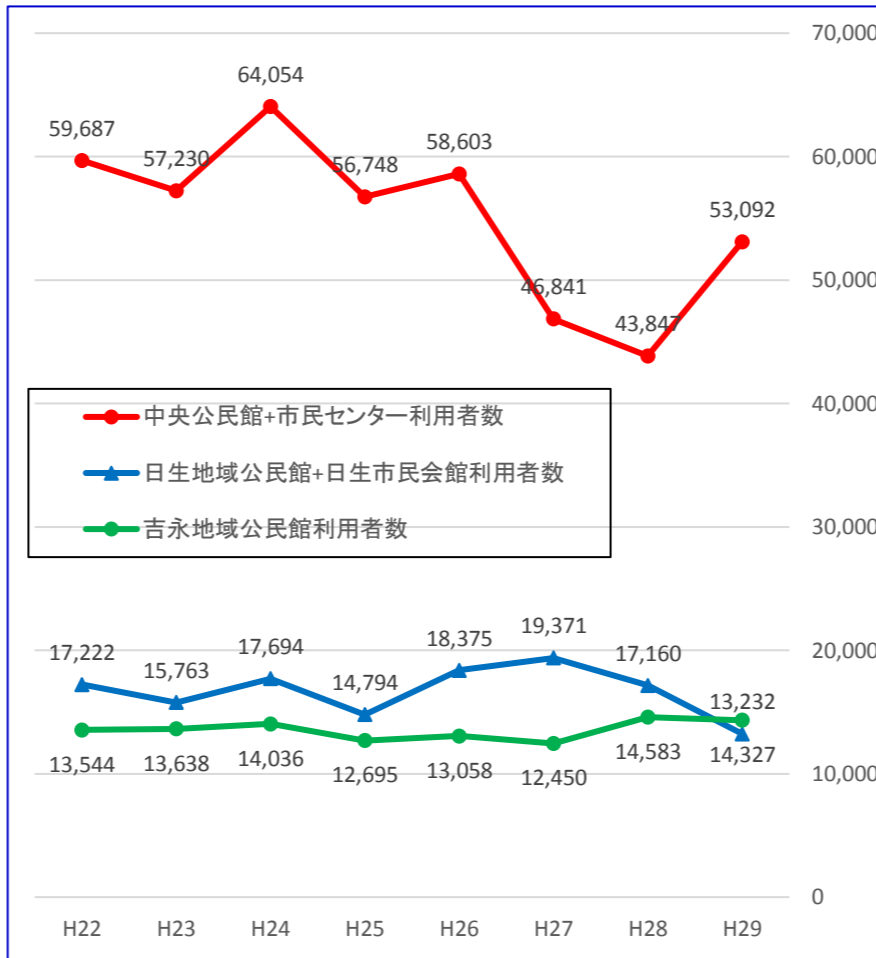
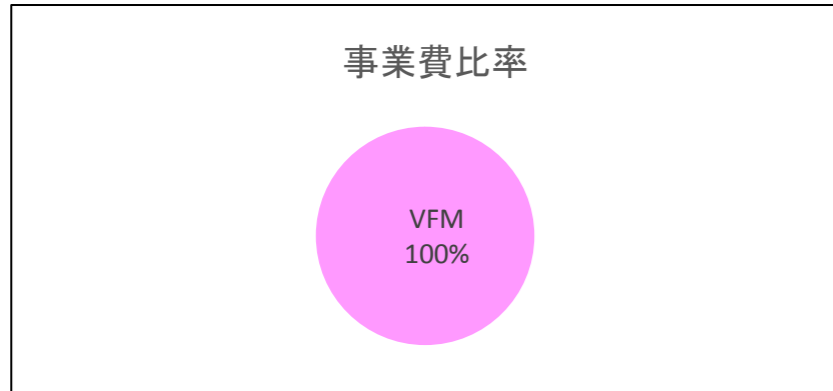
⑧ 施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断	理由 (なぜ、そのランクと評価したのか)
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか？	5		公民館や図書館にご来館いただき、各々の課題解決や情報提供に役立てていただくお手伝いをするためには、たくさんの方にご利用いただくという指標が、今の段階では最も妥当だと考えています。
2 <事業構成の妥当性> 手段は最適か？	3		貸館だけに応じている傾向が強くなっている公民館の現場を、社会教育の戦略を踏まえた上で講座を企画したり、市の各施策と連携した取組をもっと増やしていく必要があります。
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは？	3		生涯学習社会の理念を社会教育によっていかに実現するかという根本に立ち返って、地域の特性を生かしたり、理解を深めようとする事業や講座等を企画できるかどうかにかかっています。施策の有効性が高いことは他の優良事業の事例をみれば一目瞭然です。
進行年度(H30年度)の取組内容(課題解決状況)			図書館の新設については、期待を含めたご意見をいただいておりますが、実現の有無は別として、新図書館整備基本構想策定委員会により図書館整備基本構想から取り組んでいきます。また、色々な角度から検討を重ねるとともに、優良館の事例を学ぶための研修、視察を積極的に行ってまいります。
翌年度(H31年度)の取組目標			図書館の実施事業が児童サービスを推進するとともに、課題解決支援型のサービスの実施を研究し、できることから取り組んでいきます。また、東備西播定住自立圏の図書館連携を推進していくため予算確保に努めます。
二次評価者コメント			公民館については市民福祉の向上につながるような事業の展開を進めていきたい。図書館機能の整備・充実については市民の意見を取り入れながら、着実に取り組んでいきたい。
役職	教育部長		基本施策への貢献度 4 やや高い
氏名	川口 貴大		

施策評価シート(裏面)



事業費 2.5 億円
 特定財源 0.2 億円



01 市民センター管理運営事業 事務事業評価シート【VFM】

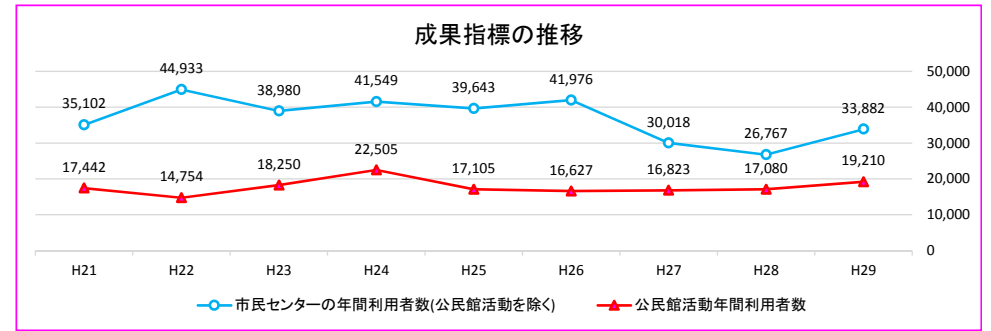
事業開始年次		昭和56年～		事業の終期	
総合計画	基本構想	02	自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	担当課(室)	社会教育課中央公民館
	基本計画	02	自分を磨ける・自分を変えられるまち	職・氏名	主査 藤本佳子
	施策	07	公民館・図書館機能の充実	電話	64-1133

事業の成果	大勢の個人・団体が利用することにより、地域及び個人が文化的に発展、向上する。
成果指標名A	市民センターの年間利用者数（備前市統計）
成果に関する他の要因	
成果指標名B	
成果に関する他の要因	

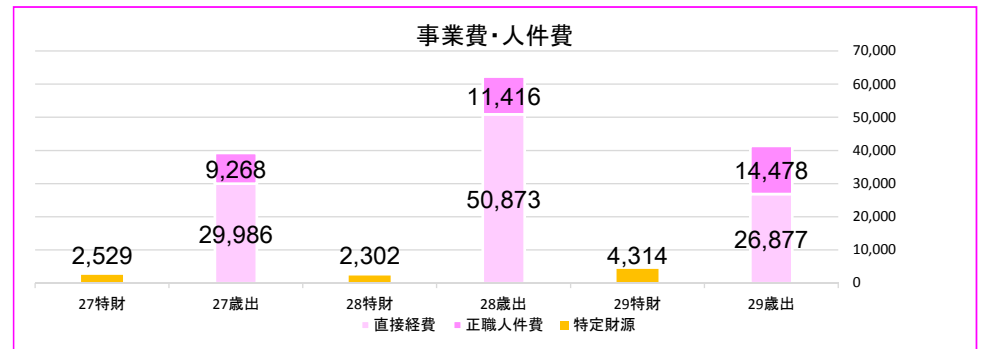
事業の説明	事業概要	【市民センター管理運営事業】中央公民館、図書館、視聴覚ライブラリー、ホールの複合施設を一括管理約800人収容のホール等貸館業務（舞台関連オペレーションを一部含む） 【公立文化施設協議会会費】公立文化施設が共通の問題を研究し、地方文化の向上を目的とした協議会。			
	制度改正の状況	・H23：使用料の改定			
	結果・実績	ホール利用者数：	H27：10,917人	H28：10,805人	H29：14,110人
		ホール以外利用者数：	H27：35,924人	H28：33,042人	H29：38,992人
		(公民館活動含む)			

経費の説明	・需用費：8,891,409円（消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料）
	・役務費：521,089円（通信運搬費、保険料、手数料）
	・委託料：12,901,060円（保守管理、警備、清掃）
	・使用料及び賃借料：14,545円（受信料）
	・工事請負費：3,181,680円（市民センター改修）
	・原材料費：32,500円（維持補修等原材料費）
・備品購入費：1,301,530円（市民センター備品）	
・負担金補助及び交付金：33,000円（公立文化施設協議会会費）	
	【事業費合計】26,876,813円

歳入の説明	受益者負担：3,530,735円（説明：受益者負担金 施設使用料及び冷暖房費）
-------	---



有効性分析	年間利用者数の増減はあるが、公民館活動等のグループ活動団体・定期講座の参加者・文化協会や貸館で利用する会社、個人、各種団体等が利用対象のためやむを得ない面がある。
-------	---



効率性分析(費用対効果)	人件費の増加は人事異動によるものであり、費用対効果は適正である。
--------------	----------------------------------

妥当性の判断	投入した費用に対して十分な成果を挙げていると判断したため、現行制度を継続する。
--------	---

今年度の重点取組	非常用蓄電池取替修繕工事、非常放送設備更新工事、舞台吊物装置マシン部品取替工事、トイレ改修工事、ホール搬入口シャッター及び防音カーテン修繕工事等必要不可欠な工事を行い、利用者が安全に利用できるようにする。 消費税増税に向けて、料金改定の準備を行う。
----------	---

次年度の方向性	舞台吊物装置手動昇降ロープ取替工事や舞台吊物装置ワイヤロープ取替工事、雨漏り対応工事等、利用者が安全に利用できるよう施設の充実を図る。
---------	---

02 市民会館運営事業 事務事業評価シート【VFM】

事業開始年次	平成57年～		事業の終期	
総合計画	基本構想	02 自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	担当課(室)	社会教育課日生地域公民館
	基本計画	02 自分を磨ける・自分を変えられるまち	職・氏名	館長 山口晋作
	施策	07 公民館・図書館機能の充実	電話	0869-72-1006

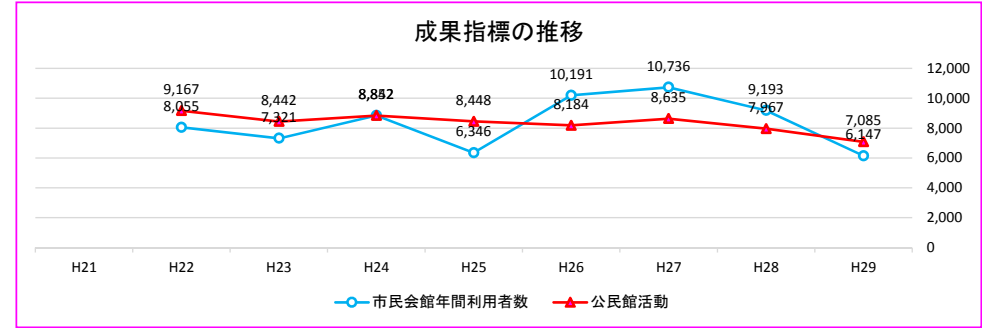
事業の成果 多種多様な目的で利用しやすい施設となるよう管理運営を行う。具体的には、市民の文化活動の拠点となったり、老若男女問わず気軽に出入りできる雰囲気づくりをし、青少年健全育成や高齢者の生きがいを見いだせる施設となるよう努める。

成果指標名A	市民会館年間利用者数（備前市統計）
成果に関する他の要因	
成果指標名B	
成果に関する他の要因	

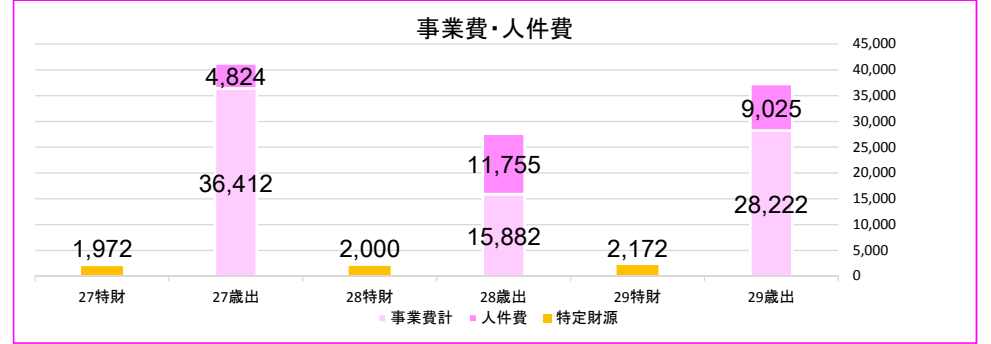
事業の説明	事業概要	芸術文化の振興のための機会と場所の提供、施設の維持管理を行う。 【今年度の重点項目】安全を確保するため老朽化による破損個所の修繕を行う。建築基準法施行令改正に伴う新安全基準に対応するためエレベーターの改修工事を行う。			
	制度改正の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・H23：使用料の改定 ・H27：公民館のグループ活動の冷暖房費の減免額の改定 			
	結果・実績	ホール利用者：	H27：7,883人	H28：7,108人	H29：4,080人
		ホール以外利用者：	H27：2,853人	H28：2,087人	H29：2,067人

経費の説明	需用費：6,301,257円（消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料）
	役務費：189,218円（通信運搬費、保険料、調律手数料）
	委託料：4,900,080円（施設保守・点検・管理・清掃委託料）
	使用料及び賃借料：33,049円（テレビ受信料）
	工事請負費：16,524,000円（市民会館改修工事）
	備品購入費：273,950円（機械器具備品）
	【事業費合計】28,221,554円

歳入の説明	受益者負担：432,530円（説明：市民会館使用料）
	諸収入：1,739,000円（説明：自動販売機設置料等）
	【歳入合計】1,882,394円



有効性分析 利用者数は直近では平成27年度をピークに減少している。利用者の変動はあるが原因はホールの稼働率が大きな要因となっている。



効率性分析（費用対効果） 施設の老朽化で施設整備費の増加は避けられないが安全に関わる設備を優先的に改修を行っている。29年度はエレベーターの改修を行ったため前年度（28年度）より維持管理費が大幅に増えた。

妥当性の判断 類似施設の統廃合が考えられるが、以前ホールのみを市民センターに統合する計画があったが地域住民や利用者から理解が得られないため断念した経緯がある。

今年度の重点取組 29年度は大規模改修（昇降機）を行ったため今年度は小規模な修繕にとどめる。空調機器を中心に不具合箇所を優先的に修繕する。来年度はエレベーターの改修を行ったため前年度（28年度）より維持管理費が大幅に増えた。

次年度の方角性 合併前から日生地域の催しや学校の文化祭に使用されるなどの多くの住民から親しまれる文化施設の拠点として現在に至っている。しかし、築35年が経過して老朽化が進み不具合が頻りに発生し、小規模な修繕を随時実施している。計画的に修繕を予定していても突発的に発生し、なかなか必要な機器の交換もままならない状況である。空調機器関係の修繕経費が増大しているが根本的な解消には大規模な改修が必要である。

03 中央公民館運営事業 事務事業評価シート【VFM】

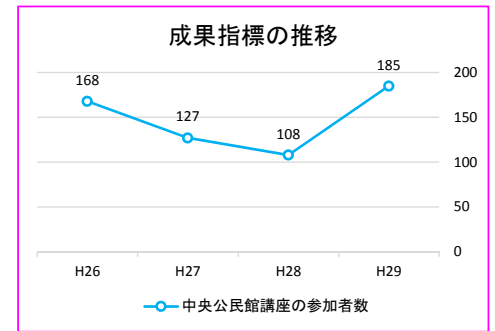
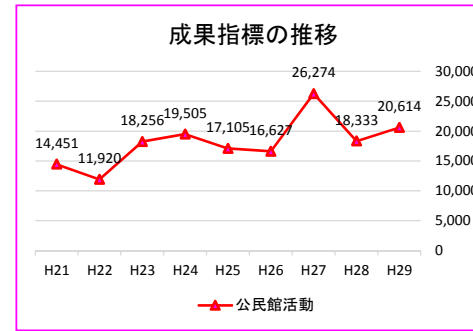
事業開始年次	昭和56年～		事業の終期	
総合計画	基本構想	02 自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	担当課(室)	社会教育課中央公民館
	基本計画	02 自分を磨ける・自分を変えられるまち	職・氏名	主幹 丹羽弘子
	施策	07 公民館・図書館機能の充実	電話	64-1133

事業の成果	地域文化及び市民の知識・文化・親睦の向上のため。
成果指標名A	中央公民館講座の参加者数
成果に関する他の要因	
成果指標名B	公民館活動(備前市統計)
成果に関する他の要因	

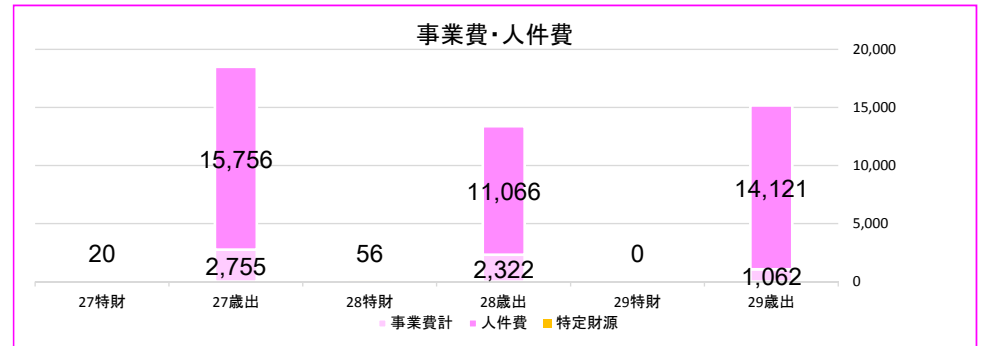
事業の説明	事業概要	【中央公民館事業】備前地域における教育、学術及び文化に関する各種の実施、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与するとともに、各地域公民館、備前地域内地区公民館との連絡調整を図る。 【市民講座】地域の教育力、文化・芸術及び教養の向上のため開催する。 【文化祭】美術作品の制作や鑑賞を通し、市民の造形芸術に対する理解を深め、文化向上を図る。			
	制度改正の状況	・H23：使用料の改定 ・H27：公民館のグループ活動の冷暖房費の減免額の改定			
	結果・実績	講座参加者数	H27：127人	H28：108人	H29：185人
		公民館活動利用人数	H27：26,274人	H28：18,333人	H29：20,614人

経費の説明	【報酬】：123,500円(公民館運営審議会委員報酬)
	【旅費】：290,950円(社会教育主事講習受講旅費)
	【需用費】：325,517円(消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料)
	【役務費】：55,548円(通信運搬費、保険料)
	【負担金補助及び交付金】：258,000円 (社会教育主事講習参加負担金、文化協会活動補助金、県公民館等振興会市町村負担金、県文化連盟会費)
	【公課費】：8,200円(自動車重量税)
	【事業費合計】1,061,715円

歳入の説明	入場料及び参加料：815千円(文化事業鑑賞会600千円・講座215千円)
-------	--------------------------------------



有効性分析	講座参加者数は増えたが、講座の充実や広報活動の周知がまだ不十分である。
-------	-------------------------------------



効率性分析(費用対効果)	人件費等が増えているが、現行からの費用削減は利用者には十分なサービスを行うことができなくなり、成果減少につながる。
--------------	---

妥当性の判断	投入した費用に対して十分な成果を挙げていると判断したため、現行制度を継続する。
--------	---

今年度の重点取組	【今年度の重点項目】人材育成の観点から、社会教育主事講習や全国公民館研究集会に参加する。
----------	--

次年度の方向性	・利用者のニーズを把握し、魅力的な事業や講座を行うとともに、中央公民館として地区公民館で出来る市民へのサービスを充実させていくための地区公民館指導を行う。
---------	---

04 日生地域公民館運営事業 事務事業評価シート【VFM】

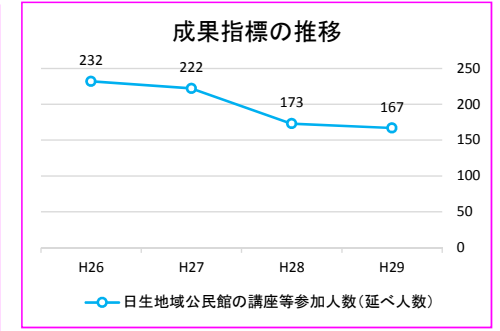
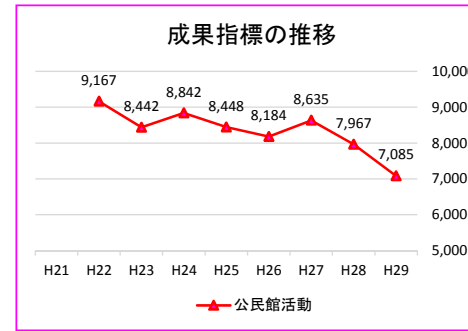
事業開始年次	平成 ○年～		事業の終期		
総合計画	基本構想	02	自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	担当課(室)	社会教育課日生地域公民館
	基本計画	02	自分を磨ける・自分を変えられるまち	職・氏名	館長 山口晋作
	施策	07	公民館・図書館機能の充実	電話	0869-72-1006

事業の成果	公民館の文化講座を通じて日生地域を中心とする地域住民の親睦が深まり、各種グループ活動を通じて得たものが地域社会に浸透し、地域文化の発展及びまちづくりにつながっていくこと。
成果指標名A	日生地域公民館の講座等参加人数(延べ人数)
成果に関する他の要因	
成果指標名B	公民館活動(備前市統計)
成果に関する他の要因	

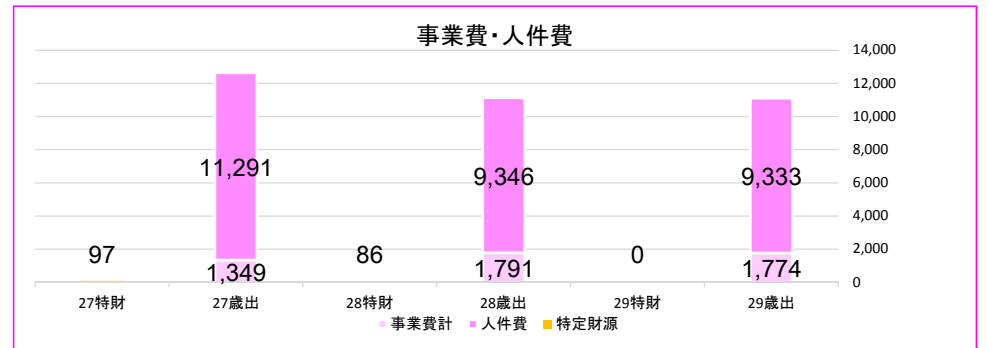
事業の説明	事業概要	【地域公民館運営事業】日生地域公民館 【市民講座】備前市内の住民を対象の講座等を企画・開催 【文化祭】日生文化祭の企画・開催
	制度改正の状況	・H23：使用料の改定 ・H27：公民館のグループ活動の冷暖房費の減免額の改定
	結果・実績	公民館活動回数 H27：640回 H28：678回 H29：709回 公民館活動利用人数 H27：8,635人 H28：7,967人 H29：7,085人

経費の説明	<ul style="list-style-type: none"> 市民講座 237,672円(賃金、報償費、需用費、役務費、使用料及び賃借料) 文化祭 66,981円(需用費、役務費) 地域公民館 1,774,393円(共済費、賃金、需用費、役務費) <p style="text-align: right;">【事業費合計】 2,079,046円</p>
-------	--

歳入の説明	<ul style="list-style-type: none"> 使用料及び手数料：76千円(グループ活動公民館冷暖房費使用料) 諸収入：32千円(複写機使用料、電話使用料) 受益者負担：58千円(公民館講座受講料) <p style="text-align: right;">【歳入合計】 166千円</p>
-------	---



有効性分析	公民館活動の人数が多少の増減はあるが長期的には減少している。公民館講座の参加人数の微減 原因としては人口減高齢化による自然減と推測できる。
-------	---



効率性分析(費用対効果)	人件費は文化祭等のホール業務やグループ活動に関するもので人件費はほぼ横ばいで推移している。
--------------	---

妥当性の判断	本施設は、市民会館、図書館、公民館の3つの顔をもつ複合施設であり地域の文化施設としての拠点である
--------	--

今年度の重点取組	公民館講座の内容が毎年固定化している。 今年度は英会話教室から韓国語教室に変更又は南海トラフの発生など地震の危険が叫ばれる中、防災意識を高めることを目的に神戸市の震災関連施設への視察を予定して今までにない講座の開設に取り組む
----------	---

次年度の方向性	地域の特性を活かした講座それに社会や住民のニーズの把握、他市町の講座などを参考に公民館講座を充実させ施設利用者の増加に繋げる。
---------	---

05 吉永地域公民館管理運営事業 事務事業評価シート【VFM】

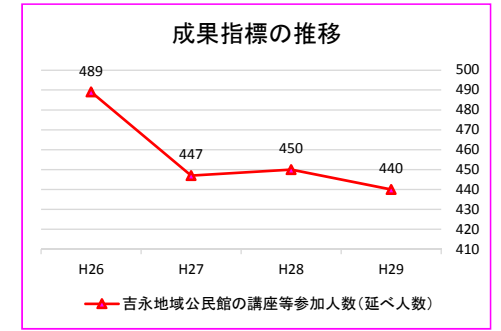
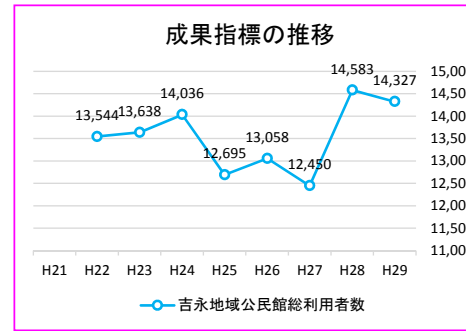
事業開始年次	昭和62年～		事業の終期	
総合計画	基本構想	02	自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	担当課(室) 社会教育課吉永地域公民館
	基本計画	02	自分を磨ける・自分を変えられるまち	職・氏名 館長 浅野隆之
	施策	07	公民館・図書館機能の充実	電話 84-3839

事業の成果	生涯学習・文化活動の拠点とし、場所の提供を行うため、施設の保守維持管理及び講座生の増加・指導者の育成
成果指標名A	吉永地域公民館総利用者数(備前市統計)
成果に関する他の要因	
成果指標名B	吉永地域公民館の講座等参加人数(延べ人数)
成果に関する他の要因	

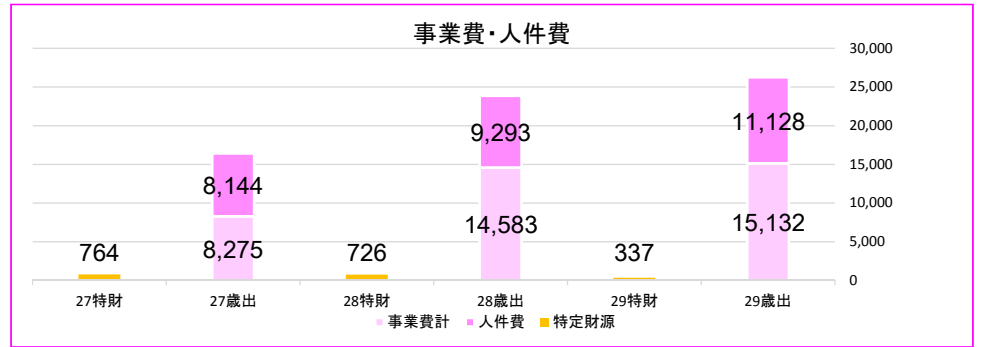
事業の説明	事業概要	【吉永地域公民館管理運営事業】施設の運営・維持管理・貸館業務 【市民講座】市民講座・文化活動の地域拠点として、講座を企画・運営 市民に学習の機会を提供する。 【文化祭】吉永文化祭の企画・運営
	制度改正の状況	・H23：使用料の改定 ・H27：公民館のグループ活動の冷暖房費の減免額の改定
	結果・実績	吉永地域公民館総利用者数： H27：12,450人 H28：14,583人 H29：14,327人 吉永地域公民館総利用件数： H27：865件 H28：926件 H29：868件 吉永地域公民館 講座等参加人数： H27：447人 H28：450人 H29：440人 吉永地域公民館 講座等参加件数： H27：11件 H28：17件 H29：19件

経費の説明	・市民講座 143千円(報償費・需用費・役務費) ・文化祭 4千円(役務費) ・地域公民館 14,985千円(共済費・賃金・旅費・需用費・役務費・委託料・使用料及び賃借料・備品購入費) 内繰越分3,629千円(工事請負費・委託料)	【事業費合計】 15,132千円

歳入の説明	使用料及び手数料：337千円(公民館等使用料) 財産収入：11千円(書籍・冊子売払収入) 諸収入：506千円(複写機使用料・電話使用料・電気・水道使用料・自動販売機設置料) 受益者負担：72千円(公民館講座受講料)	【歳入合計】 926千円



有効性分析	利用人数が増えることにより、市民が積極的に文化活動・グループ活動を行い交流を図っていると考えられる。利用者数は、29年度は総利用者数や参加人数はほぼ変わらなかった。
-------	--



効率性分析(費用対効果)	建物が老朽化しているため、事業費が増加しており、今後も増えることが予想される。利用者は高齢化に伴い減少傾向にあるが、地域の人々が参加できる事業・講座を開催して行く。
--------------	--

妥当性の判断	投入した費用に対してある程度の成果を挙げていると判断したため、現行制度を継続する。
--------	---

今年度の重点取組	老朽化した施設の修繕箇所を少ない予算内で効率よく修繕していく。少人数で効率よく運営をし、現在の活動を維持していく。地域の人々(幼児～高齢者まで)が参加できる魅力ある事業・講座を開催できるよう検討する。
----------	--

次年度の方向性	だんだんと参加者が減少傾向にある「あすなる学級」「むつみ学級」について考えて行く。コスト削減を意識しながら、中央・日生・各地区公民館と連携し、魅力ある事業・講座を開催していき、地域づくりの拠点となるよう検討・運営をしていく。地域の方々が集いやすい場所となるよう心がけていく。
---------	---

06 自治公民館等整備事業 事務事業評価シート[VFM]

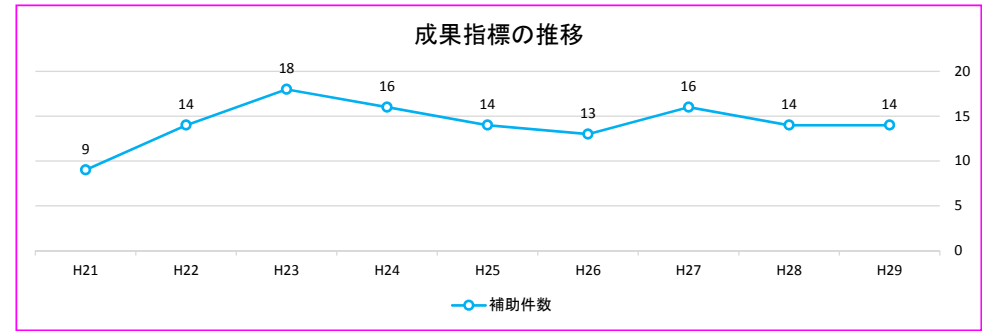
事業開始年次	昭和59年度～		事業の終期	
総合計画	基本構想	02 自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	担当課(室)	社会教育課中央公民館
	基本計画	02 自分を磨ける・自分を変えられるまち	職・氏名	主幹 丹羽弘子
	施策	07 公民館・図書館機能の充実	電話	64-1133

事業の成果	地区社会教育活動の拠点施設としての充実、発展の一助となる。
成果指標名A	補助件数
成果に関する他の要因	
成果指標名B	
成果に関する他の要因	

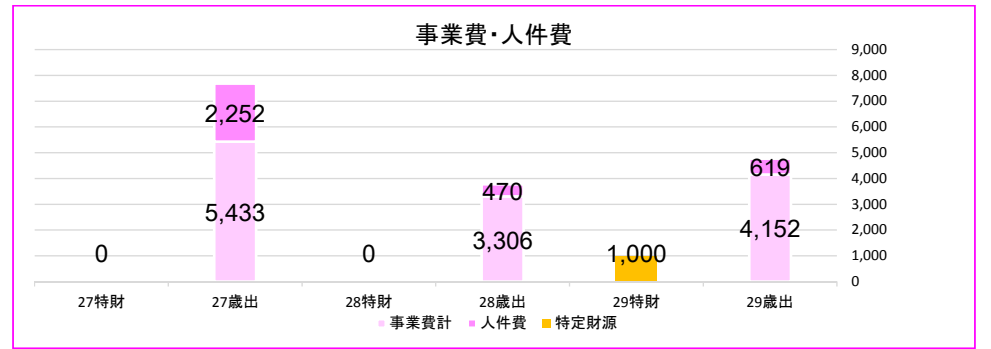
事業の説明	事業概要	【自治公民館等整備事業】自治公民館の新築費、維持管理費の一部を補助金として交付 ・補助率 新築1/2、改築・修繕・備品購入 等2/5補助額 ・補助額 新築限度額500万円、大規模事業（補助対象事業費50万円以上）限度額200万円、小規模事業（補助対象事業費10万円以上50万円未満）限度額なし ・補助期間 単年事業（大規模事業を受けた自治公民館は補助を受けた年から起算して3年以内の補助は			
	制度改正の状況	・H17.3.22：補助対象施設 備前地域（自治公民館）122館と吉永地域（集会所等）33館に拡大 ・H28.4.1：補助対象施設 吉永地域（集会所等）を33館から36館へ拡大			
	結果・実績	H26	13件	4,181千円	
		H27	16件	5,433千円	
		H28	14件	3,306千円	
		H29	14件	4,140千円	

経費の説明	【役員費】：11,997円（通信運搬費・切手代）
	【負担金補助及び交付金】：4,140,000円（自治公民館等整備事業補助金）
	【事業費合計】 4,151,997円

歳入の説明	協働のまちづくり推進助成金：1,000,000円
-------	--------------------------



有効性分析	例年件数は横ばいで要望がある。
-------	-----------------



効率性分析 (費用対効果)	自治公民館を利用する機会が増えている為、現行からの費用削減は利用者には十分なサービスを行うことができなくなり、成果減少につながる。
---------------	---

妥当性の判断	投入した費用に対して十分な成果を挙げていると判断したため、現行制度を継続する。
--------	---

今年度の重点取組	・制度を知らない自治公民館長が無いよう、お知らせを行う。
----------	------------------------------

次年度の方向性	・毎年区長や自治公民館長が代わる地区があるので、毎年分かりやすくお知らせを行う。
---------	--

07 地区公民館運営事業 事務事業評価シート【VFM】

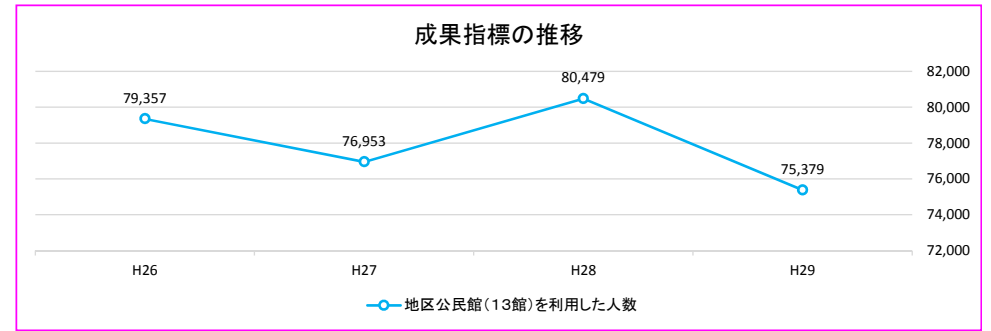
事業開始年次		昭和49年度～		事業の終期	
総合計画	基本構想	02	自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	担当課(室)	社会教育課中央公民館
	基本計画	02	自分を磨ける・自分を変えられるまち	職・氏名	吉野 孝義
	施策	07	公民館・図書館機能の充実	電話	64-1133

事業の成果	住民の教養の向上、健康の増進、生活文化の振興、社会福祉の増進を目的とする。
成果指標名A	地区公民館（13館）を利用した人数
成果に関する他の要因	
成果指標名B	
成果に関する他の要因	

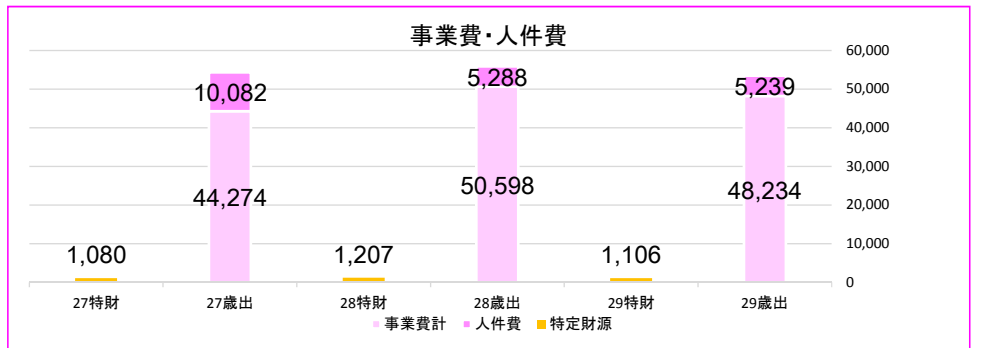
事業の説明	事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 【地区公民館管理運営事業】施設整備を行うことにより、利用者に最適な生涯学習の場を提供する。 【地区公民館運営審議会事業】運営審議会は、館長の諮問に応じ、各種事業の企画実施について調査審議する。 【地区文化祭運営事業】地区住民の文化向上に資することを目的とした事業。 【地区体育祭運営事業】地区住民の健康の増進を図ることを目的とした事業。 【地区社会体育事業】スポーツ活動を通じて、地域コミュニティの育成を目的とした事業。 	
	制度改正の状況	・H23：使用料の改定	
	結果・実績	西鶴山公民館利用人数：7,654人 香登公民館利用人数：11,989人 伊部公民館利用人数：12,007人 片上公民館利用人数：5,735人 伊里公民館利用人数：10,830人 東鶴山公民館利用人数：7,927人 三石公民館利用人数：3,687人	日生西公民館利用人数：1,474人 日生東公民館利用人数：6,443人 日生南公民館利用人数：803人 三国公民館利用人数：962人 神根公民館利用人数：5,660人 和意谷公民館利用人数：208人

経費の説明	・報酬 3,128,000円（地区公民館長報酬、地区公民館運営審議会委員報酬） ・共済費 3,483,868円（社会保険料） ・賃金 24,850,050円（臨時雇賃金、地区公民館主事賃金） ・旅費 62,980円（普通旅費） ・需用費 6,922,303円（消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料） ・役務費 981,605円（通信運搬費、火災保険料、手数料） ・委託料 878,761円（電気安全管理委託料、浄化槽維持管理委託料、消防設備点検委託料、地区文化祭・体育事業委託料） ・使用料及び賃借料 1,383,185円（テレビ受信料、施設使用料、西鶴山公民館用地借上料、寒河江センター用地借上料） ・原材料費 8,940円（維持補修等原材料費） ・工事請負費 5,821,200円（施設整備工事） ・備品購入費 712,915円（施設整備備品）	【事業費合計】48,233,807円
	・受益者負担：1,173,100円（説明：受益者負担金 施設使用料、冷暖房費、複写機使用料） ・行政財産使用料：295,200円（説明：機器設置料）	

歳入の明	・受益者負担：1,173,100円（説明：受益者負担金 施設使用料、冷暖房費、複写機使用料） ・行政財産使用料：295,200円（説明：機器設置料）
------	---



有効性分析	年間利用者数の増減はあるが、公民館活動等のグループ活動団体・各種団体等が利用対象のためやむを得ない面がある。H28からH29にかけて認定グループ団体の参加者の高齢化により定期利用者が減った。
-------	---



効率性分析（費用対効果）	人件費はほぼ横ばいで推移している。グループ活動団体の定期利用者は減っても公民館を運営するためには必要な人件費。
--------------	---

妥当性の判断	・投入した費用に対して十分な成果を挙げていると判断したため、現行制度を継続する。 地区公民館は地域の拠点であり、地区が活性化するためにはなくてはならない場所なので現行のまま継続する必要があります。
--------	---

今年度の重点取組	施設の老朽化等により雨漏り、空調設備の故障が見られるため、改修を行う。 ただ、グループ活動の人数が高齢化による自然減が見られるため、グループ活動の参加者が増えるような講座の開設と規約の改正も視野に含め検討する。
----------	--

次年度の方向性	地区公民館は地域の拠点になる場所であるため、利用者がより快適に施設を使用できるよう目立った老朽箇所を整備し、適正な維持管理を行う。
---------	---

08 図書館運営事業 事務事業評価シート【VFM】

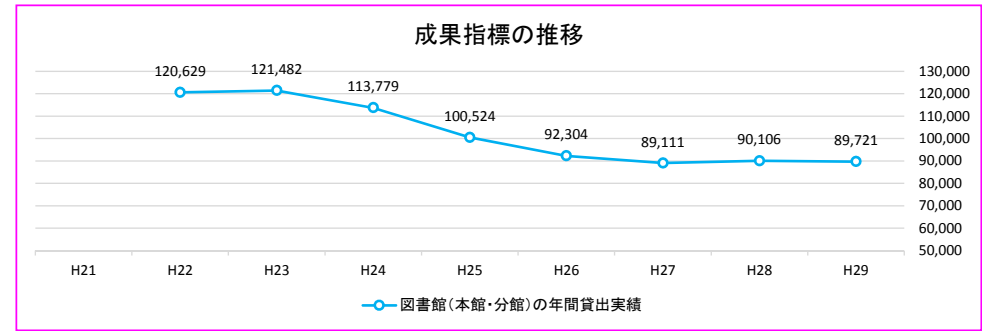
事業開始年次	昭和62年～		事業の終期		
総合計画	基本構想	02	自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	担当課(室)	社会教育課中央公民館
	基本計画	02	自分を磨ける・自分を変えられるまち	職・氏名	図書館 福本浩子
	施策	07	公民館・図書館機能の充実	電話	64-1134

事業の成果	市民の全てが、教養、調査研究、レクリエーション等のために図書館を利用し、心豊かに生きがいのある生涯学習を行ってもらうため。
成果指標名A	図書館(本館・分館)の年間貸出実績(備前市統計)
成果に関する他の要因	
成果指標名B	
成果に関する他の要因	

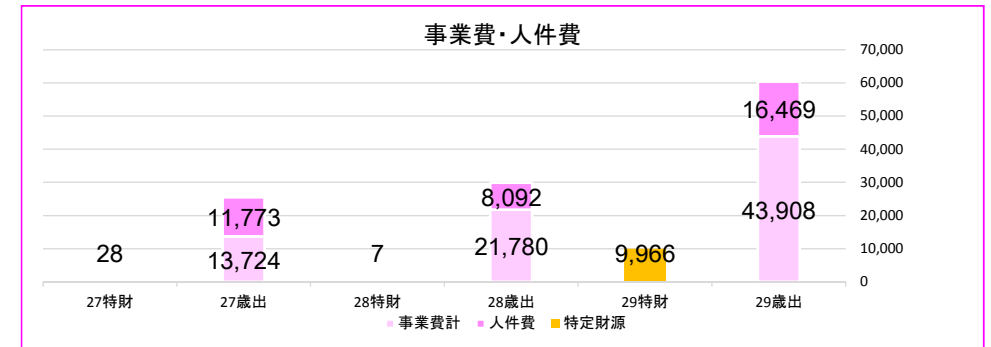
事業の説明	事業概要	【資料の収集】図書・記録等を収集・整理・保存し、閲覧・貸出を行い、教養・調査研究・レクリエーション等に【レファレンスサービス】利用者の求めている情報を提供する。 【移動図書館事業】図書館を利用しにくい地域を中心に巡回を行う。 【図書館講座】ボランティアや図書館利用者対象の講座の企画・開催。 【ブックスタート事業】4ヶ月検診時に、絵本をひらく「体験」と「絵本」をプレゼントする。 【児童サービス】乳幼児から青少年までを対象に、本に親しむ機会を提供する。
	制度改正の状況	
	結果・実績	年間貸出実績 H27 89,118件 H28 90,106件 H29 89,721件 年間来館者数実績 H27 29,384件 H28 31,557件 H29 31,511件

経費の説明	【報酬】：65,000円(図書館協議会委員報酬) 【共済費】：1,334,433円(社会保険料) 【賃金】：9,332,857円(臨時雇用賃金) 【報償費】30,000円(講師謝礼) 【旅費】：3,160円(普通旅費) 【需用費】：1,384,335円(消耗品費、燃料費、食糧費、印刷製本費、修繕料) 【役員費】：176,621円(通信運搬費、自動車損害保険、傷害保険) 【委託料】：21,147,038円(電算システム導入委託料、図書館電算システム保守点検委託料、図書データ作成委託料) 【使用料及び賃借料】：436,120円(有料道路通行料、船借上料、データ使用料、図書検索ソフト使用料) 【備品購入費】：9,986,852円(図書、図書館備品) 【負担金補助及び交付金】：12,000円(県図書館協会負担金) 【事業費計】43,908,416円

歳入の説明	受益者負担：8千円(説明：カード再発行・講座参加費・複写代) まちづくり応援基金繰入金：9,958,000円 繰越事業費等充当財源繰越額：18,900,000円
-------	--



有効性分析	年間貸出数はほぼ横ばいである。図書の充実や広報活動の周知がまだ不十分である。備前市は県内15市の中で資料代が13位(平成27年度比較より)と県内でも下位に位置しています。
-------	---



効率性分析(費用対効果)	人件費等が増えているが、現行からの費用削減は利用者に必要なサービスを行うことができなくなり、成果減少につながる。 事業費の増は、図書購入費が増加したこと、図書館システム更新・保守があったためです。
--------------	---

妥当性の判断	成果はほぼ横ばいであるので、本事業を継続しつつ、事業内容の改善を行っていく。 図書館としては、資料整理をしていますが、書架に新刊入る余地がないほど手狭になっています。他の図書館のように十分な閉架書庫もないため、古い本の移動もできない状態です。その中で、利用しやすいよう配架の工夫などをしていっている状況です。また、H26・27年度で県内25市町図書館で22位だった資料費を増やしていただきましたが、その時離れてしまった利用者により来館してもらえようPRをしていくことも必要です。
--------	--

今年度の重点取組	館内の整備を行い、利用者が利用しやすい配置や環境づくりを行う。資料を充実させるとともに、就学前の幼児への読書推進を図る。 利用者から配置がわかりにくい、本が古いなどのご意見をいただいております。利用者からの要望・意見をもとに整備していくことが必要と考えます。
----------	--

次年度の方角性	利用者のニーズを把握し資料収集や講座を行うとともに、図書館へ来館できない市民へのサービスを充実させていく。
---------	---

09 視聴覚ライブラリー 事務事業評価シート【VFM】

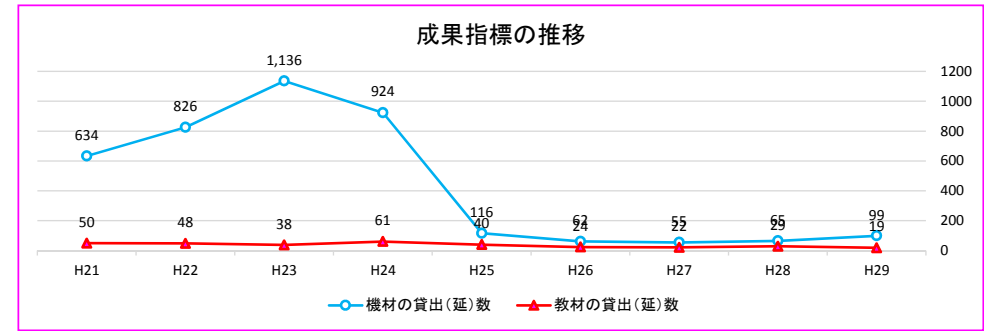
事業開始年次	昭和46年度～		事業の終期	
総合計画	基本構想	02	自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	担当課（室） 社会教育課中央公民館
	基本計画	02	自分を磨ける・自分を変えられるまち	職・氏名 吉野 孝義
	施策	07	公民館・図書館機能の充実	電話 64-1133

事業の成果	本事業が広く周知され、視聴覚教育振興の活性化に貢献する。
成果指標名A	機材の貸出（延）数
成果に關する他の要因	
成果指標名B	教材の貸出（延）数
成果に關する他の要因	

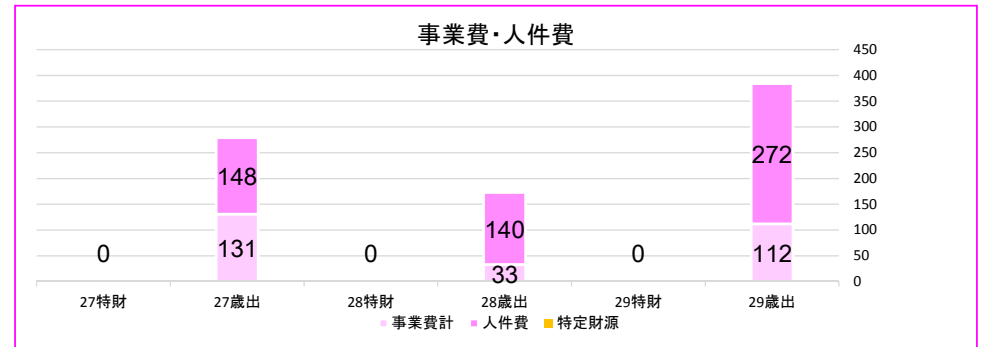
事業の説明	事業概要	【視聴覚ライブラリー運営事業】学校教育及び社会教育に関する視聴覚教材の貸出 【県AVL連絡協議会負担金】県内の地域視聴覚ライブラリーが連携を図り、担当者研修会等を行う。
	制度改正の状況	
	結果・実績	視聴覚教育を行う市内の団体への機材貸： H27：55件 H28：65件 H29：99件 視聴覚教育を行う市内の団体への教材貸： H27：22件 H28：29件 H29：19件

経費の説明	【需用費】：40,046円（消耗品費） 【備品購入費】：64,972円（施設整備備品） 【負担金及び交付金】：7,000円（県視聴覚ライブラリー連絡協議会負担金）
	【事業費合計】112,018円

歳入の説明	
-------	--



有効性分析	平成24年度でパソコン教室の活動が終了し、機材の利用頻度が減っていたが本庁舎建替に伴い、市の研修等による施設利用が増えたため、例年に比べ貸出数が増えた。
-------	--



効率性分析（費用対効果）	人件費の増加は人事によるものであり、費用対効果は適正である。
--------------	--------------------------------

妥当性の判断	成果はほぼ横ばいであるので、本事業を継続しつつ、事業内容の改善を行っていく。
--------	--

今年度の重点取組	視聴覚機材・教材等については、DVD教材等を購入する。 現在保有している機材、教材で生産中止等で補修できないもの、教材内容が時代に即していないもの、耐用年数が過ぎ劣化が著しいもの等の整理をする。
----------	--

次年度の方向性	経年劣化した機器等については更新、補修のできないものについては処分を検討する。 16ミリフィルム教材を整理し、貴重な映像等があれば、DVDへ移行していく。
---------	--

10 市民講座・文化祭事業 事務事業評価シート【VFM】

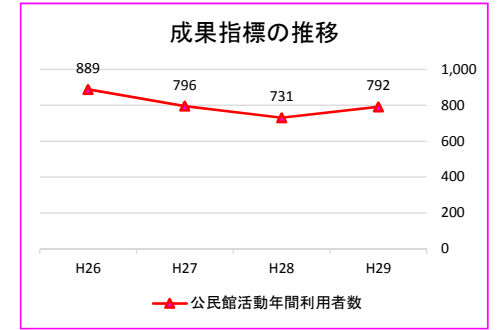
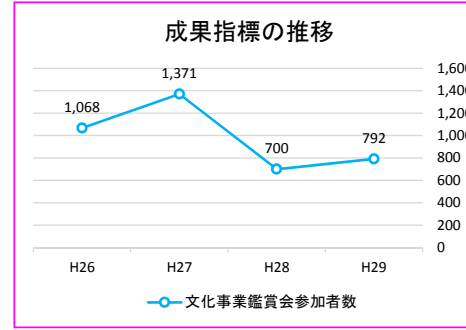
事業開始年次		昭和56年～		事業の終期		
総合計画	基本構想	02	自己実現政策「生涯学習、歴史、文化」	担当課(室)	社会教育課中央公民館	
	基本計画	02	自分を磨ける・自分を変えられるまち	職・氏名	主査 藤本佳子	
	施策	07	公民館・図書館機能の充実	電話	64-1133	

事業の成果	自主事業として市民講座や文化事業鑑賞会を実施し、社会教育の充実を図る	
成果指標名A	文化事業鑑賞会参加者数	
成果に関する他の要因		
成果指標名B	公民館講座参加者数	
成果に関する他の要因		

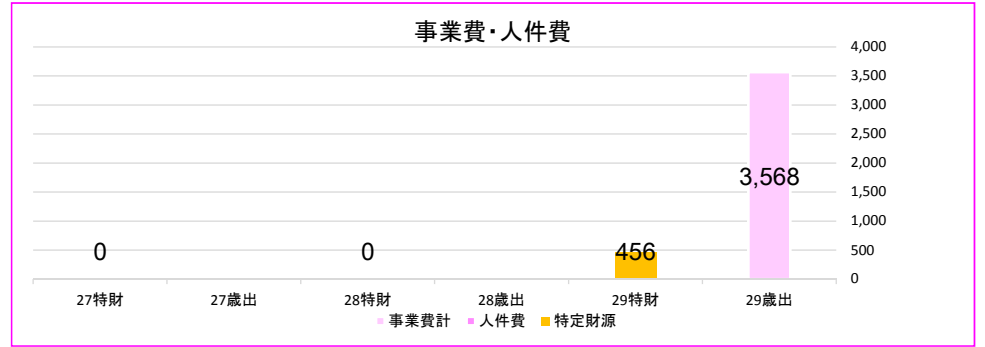
事業の説明	事業概要	【市民講座】地域の教育力、文化・芸術及び教養の向上のため開催する。	
	制度改正の状況		
	結果・実績	文化事業鑑賞会参加者数 講座参加者数	H27：1,371人、H28：700人、H29：792人 H27：796人、H28：731人、H29：792人

経費の説明	【賃金】9,170円(運転員賃金) 【報償費】1438,000円(講師謝礼) 【需用費】428,899円(消耗品・食糧費・印刷製本費) 【役務費】74,486円(通信運搬費・ピアノ調律手数料) 【委託料】2,210,000円(文化事業鑑賞会委託料) 【使用料及び賃借料】50,000円(船借上料)
	【事業費合計】 3,210,555円

歳入の説明	受益者負担：272,100円 (説明：文化事業鑑賞会入場料)
	受益者負担：183,500円 (説明：公民館講座受講料)



有効性分析	文化事業鑑賞会の参加人数は年度ごとに開催回数や開催地が異なるため一律に判断できない。
-------	--



効率性分析(費用対効果)	人件費や事業費が計上されているが、現行からの費用削減は利用者には十分なサービスを行うことができなくなり、成果減少につながる。
--------------	--

妥当性の判断	地域の教育力、文化・芸術及び教養の向上のため、社会教育の拠点として開催する必要がある。
--------	---

今年度の重点取組	文化事業鑑賞会は今までに行っていない地区で開催し、啓発を試みている。また、講座参加者が受講するだけでなく、どんな講座にしたいか発信する主体性を持った講座を開設する等、あらたな取り組みをしている。
----------	---

次年度の方向性	文化事業鑑賞会や講座参加者から希望調査を行っており、その意向を踏まえた事業を開催する。
---------	---